

第1章

いんざい環境特集

「環境」という幅広いテーマの中から、今、特に注目されている分野や、活発な動きのある話題を特集します。

特集 2020 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)

I 持続可能な開発目標（^{エス・ディー・ジーズ}SDGs）とは

環境問題と持続可能な開発に関する国際会議である国連サミットにおいて、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会の普遍的な目標として採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、「持続可能な開発目標」（以下、「SDGs」とする）として 17 のゴール（目標）と 169 のターゲットが掲げられています。

SDGs のゴール及びターゲットは相互に関係しており、総合的なアプローチを用いることで環境・社会・経済における複数の課題の同時解決を図る「マルチベネフィット」を目指す特徴があるほか、あらゆる主体が参加する「全員参加型」のパートナーシップの促進が掲げられています。

SDGsの主要原則

- 【普遍性】先進国と開発途上国の両国が、国内と国外の両面で行動する
- 【包摂性】人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」という理念に向け取り組む
- 【参画型】全てのステークホルダー（政府、企業、NGO、有識者等）が役割を持つ
- 【統合性】社会・経済・環境は相互に関連性があるため、統合的に取り組む
- 【透明性】モニタリング指標を定め、定期的に取り組内容を評価・公表する



SDGsにおける 17 のゴール

1	貧困の撲滅	10	国内と国家間の不平等の是正
2	飢餓撲滅、食品安全保障	11	持続可能な都市
3	健康・福祉	12	持続可能な消費と生産
4	万人への質の高い教育、生涯教育	13	気候変動への対処
5	ジェンダー平等	14	海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用
6	水・衛生の利用可能性	15	陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性
7	エネルギーへのアクセス	16	平和で包摂的な社会の促進
8	包摂的で持続可能な経済成長、雇用	17	実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化
9	強靱なインフラ、工業化・イノベーション		

出典：国連広報センター

II 世界における SDG s の達成状況や取組

持続可能な開発ソリューション・ネットワークとドイツのベルテルスマン財団が、各国における SDG s の取組について年に一度報告書を作成しています。

令和 2 (2020) 年の報告では、全体の達成度ランキングの 1 位はスウェーデンであり、上位 10 カ国からみて SDG s は特にヨーロッパの国々で取組が進んでいる傾向にあります。

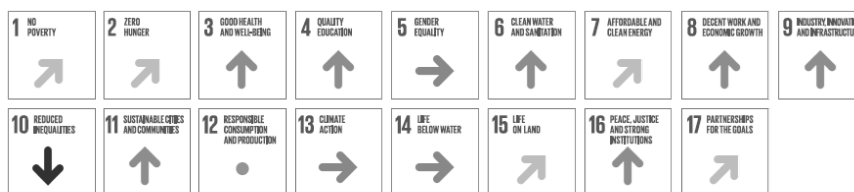
日本は 17 位であり、アジアの中では最も高いものの、目標 12「つくる責任 つかう責任」や目標 13「気候変動に具体的な対策を」などでは多くの課題があると考えられています。

SDGsの達成状況におけるランキング

順位	国名	順位	国
1	スウェーデン	7	オーストリア
2	デンマーク	8	チェコ共和国
3	フィンランド	9	オランダ
4	フランス	10	エストニア
5	ドイツ		：
6	ノルウェー	17	日本

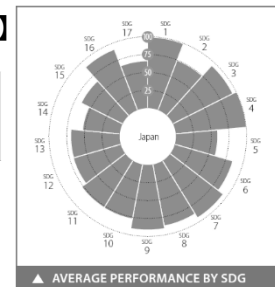
参考:Sustainable Development Report 2020

【進捗の傾向】



↓ Decreasing → Stagnating ↗ Moderately improving ↑ On track or maintaining SDG achievement ● Information unavailable

【平均実績】



日本における SDGsの進捗状況

出典:Sustainable Development Report 2020

世界各国の取組事例

■ スウェーデン

- ・森林都市ベクショーでは 2030 年までに「化石燃料ゼロ」を達成すると宣言し、石油の使用を減らし、森林資源を活用したバイオマスエネルギー※などへの代替を推進

■ デンマーク

- ・コペンハーゲン南部で、エネルギーは再生可能エネルギーのみを使用し、雨水などはリサイクルする 100%持続可能な村 (UN17 Village) を創るプロジェクトを実施
- ・おもちゃメーカーのレゴは持続可能な素材を使用した商品の販売を開始し、2030 年までにブロック商品を持続可能な素材に代替するという目標を発表

■ フィンランド

- ・CO₂ 排出量削減、厳正な環境基準を満たすフィンランドの製品、飲食店等の認証、廃棄物ゼロ推進などを実施

Ⅲ 個人でできる SDG s の取組

国では平成 28（2016）年 12 月に「SDG s 実施指針」を策定し、令和元（2019）年に改定するとともに、令和 2（2020）年には SDG s 推進のための具体的施策をとりまとめた「SDG s アクションプラン 2020」を策定することで、これらの計画に基づく取組を進めています。

千葉県などの各自治体でも各種計画に SDG s の理念を盛り込む動きが広がっており、本市でも令和 3（2021）年に向けて策定を進めている「印西市環境基本計画」において、環境面から SDG s へのアプローチを検討しています。

SDG s の目標を達成するには、こうした国や自治体の取組に加え、各企業や個人でもできる取組を進めていくことが重要です。

個人でできる SDGs の取組

ソファに寝たままできること	家にいてもできること
・電源タップを活用して、使わない時は電気を切ることで節電しよう ・請求書が来たら、払込用紙を使わずオンラインで支払おう ・覚えておきたいことはノートやデジタル付箋を活用して、印刷用紙を節約しよう ・必要ない時は消灯しよう ・持続可能で環境にやさしい取組をしている企業の製品を買おう	・ドライヤーや乾燥機は使わずに、髪や衣類は自然乾燥させよう ・生産に多くの資源が使われる肉や魚は控えめにしよう ・生鮮品や残り物、食べ切れない時は早めに冷凍しよう ・生ごみを堆肥化しよう ・紙やプラスチック、ガラスなどをリサイクルしよう ・できるだけ簡易包装の品物を買おう ・エアコンの温度を、冬は低めに、夏は高めに設定しよう ・古い電気機器から省エネ型の機種に取替よう ・できれば太陽光発電を家に取り付けよう ・食洗器を使う場合は、あらかじめのすすぎをやめよう
家の外でできること	職場でできること
・地域の企業を支援するために買い物は地元でしよう ・大きさや形、色が規格に合わない「訳あり商品」を買おう ・詰め替え可能なボトルなどを使おう ・買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋は断ろう ・テイクアウトで食べる時、ナプキンに必要な分だけ取ろう ・衣類や本、家具で使わないものは寄付しよう	・社内の冷暖房装置は省エネ型にしよう ・通勤は自転車、徒歩、または公共交通機関を活用しよう

参考：持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド